

日独シンポジウム

# ネット時代と 世論形成

Symposium  
Öffentlichkeit im Internetzeitalter

第二次世界大戦後、著名な知識人たちの提言は、民主主義の発展にとって大きな役割を果たしてきました。「過去の克服」から「ビッグデータ」にいたるまで、社会的な意識形成に重要な課題が作家や哲学者、演劇人らによって提起され、広く一般に議論が行われてきました。

インターネットの登場は、私たちの社会関与に全く新しいかたちを切り拓きましたが、それは同時に世論の形成方法に変化をもたらし、従来のオピニオンリーダーとしての知識人や伝統的なメディアの重要性が脅かされることがあります。

これまで世論形成においては、人文科学に基づく教養が民主主義的な議論の根底を成してきました。人文科学を通して身につけた高い教養や批判的思考力は、電子メディアのもたらしたスピード情報社会における議論でも必要でしょうか？ Twitter、Facebook、LINEなどを始めとする新しいデジタルメディアは、知識人らの活躍する“舞台”として適しているでしょうか？ 薄れつつある知識人の存在感や人文科学は、現代社会の意識形成にどのような影響を与えていくのでしょうか？

戦後70年、そして、東西ドイツ再統一25周年という節目のいま、現代社会の世論形成や、教育・政治的意思形成の可能性や挑戦について、日独両国の視点から討論します。



**ユルゲン・カウベ Jürgen Kaube**  
フランクフルター・アルゲマイネ紙共同発行人/ジャーナリスト

1962年生まれ。ベルリン自由大学にて哲学・ドイツ文学・美術史を学んだ後、経済学を修める。ビーレフェルト大学で社会学助手を務めた後、1992年以降、定期的にフランクフルター・アルゲマイネ紙 (FAZ) の学芸面で執筆し、1999年より同紙編集局に正式所属。学術・教育政策を担当し、人文科学分野責任者、書評責任者、学芸面副責任者などを経て、2015年1月より同紙共同発行人。学芸面総責任者も兼任する。著書に『Otto Normalabweicher』、『Max Weber』など。2015年ルートヴィヒ・ベルヌ賞受賞。



**岩本 裕 Hiroshi Iwamoto**  
NHKジャーナルキャスター

1965年愛媛県生まれ。1988年早稲田大学法学部卒業。同年NHKに入局。和歌山局記者、報道局科学文化部記者、大阪放送局報道部ニュースデスク、解説委員、「週刊こどもニュース」3代目お父さん、NHK放送文化研究所世論調査部副部長などを経て、現在NHKラジオセンター所属。著書に「朽ちていった命—被爆治療 83日間の記録」、「NHK 地球テレビ 100世界のニュースがわかる本」、「失われた「医療先進国」」、「NHK中学生・高校生の生活と意識調査 2012」など。2015年5月、「世論調査とは何だろうか」を刊行。



**クリストフ・ビーバー Christoph Bieber**  
デュースブルク・エッセン大学教授 政治学者・メディア研究者

1970年生まれ。政治学者、メディア研究者、著述家。ギーセン大学とベルリン自由大学で政治学とドイツ文学を学んだ後、ギーセン大学で研究員・学術助手を務める。2007/08年、ギーセン大学比較政治学教授。2011年より、デュースブルク・エッセン大学にて政治・社会倫理学の教授を務める。インターネット等の新しいメディアによる民主主義や政治的プロセスへの影響を主に研究。「Politik & Kommunikation」誌の編集顧問。オンラインマガジン「Politik-digital」創設者。WDR西ドイツ放送局評議員。



**津田 大介 Daisuke Tsuda**  
ジャーナリスト、メディア・アクティビスト

1973年生まれ。東京都出身。早稲田大学社会科学部卒業。「ボリタス」編集長。大阪経済大学客員教授。京都造形芸術大学客員教授。一般社団法人インターネットユーザー協会(MIAU)代表理事。株式会社ナターシャ Co-Founder。ソーシャルメディアを利用した新しいジャーナリズムをさまざまな形で実践。世界経済フォーラム(ダボス会議)「ヤング・グローバル・リーダーズ 2013」選出。著書に「ウェブで政治を動かす!」、「情報の呼吸法」、「Twitter社会論」など。週刊有料メールマガジン「メディアの現場」を配信中。



**佐藤 卓己(司会) Takumi Sato**  
京都大学大学院教授、メディア史研究者

1960年広島市生まれ。京都大学大学院文学研究科修了後、ミュンヘン大学近代史研究所留学。1989年京都大学大学院博士課程単位取得退学。京都大学博士(文学)。東京大学新聞研究所助手、同志社大学助教授、国際日本文化研究センター助教授などを経て、京都大学大学院教育学研究科教授。専門はメディア史、大衆文化論。著書に『現代メディア史』、『「キング」の時代』(日本出版学会賞受賞、サントリー学芸賞受賞)、『言論統制』(吉田茂賞受賞)、『テレビ的教養』、『輿論と世論』、『物語岩波書店百年史2』、『増補八月十五日の神話』など。

## 交通のご案内

京阪電車 出町柳駅より 南へ徒歩8分

京阪電車 神宮丸太町駅より 北へ徒歩6分



## 主催・お問い合わせ

Goethe-Institut Villa Kamogawa

京都市左京区吉田河原町 19-3

(川端通り荒神橋上る)

TEL: 075-761-2188 (内線 311#)

info@villa-kamogawa.goethe.org

www.goethe.de/villa-kamogawa



GOETHE  
INSTITUT  
VILLA KAMOGAWA

シンポジウムの後は、館内のドイツカフェ「カフェ・ミュラー」にて、ドイツビールやおつまみを片手に交流をお楽しみください。